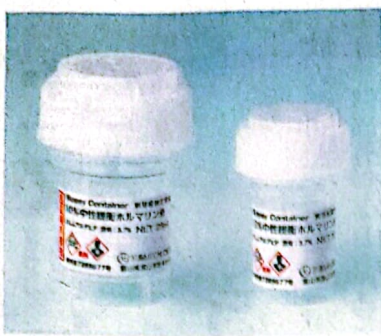


ホルマリン容器無暴露化

三晶MEC・富山大が開発

プラスチック成形の三晶MEC（滑川市中新、一色勝彦社長）と富山大の研究グループは4日、病理検査・診断のために採取した検体を保存するホルマリン容器の無暴露化に成功したと発表した。安全性の高い無暴露タイプの容器は、海外メーカー製が主流で、国産化が遅れていた。同社は、設計から製作まで担う一貫量産体制によってコスト削減を実現。価格面で優位に立ち、販売拡大を目指す。



三晶MECと富山大が共同開発したホルマリン容器

ホルマリン容器は、細胞や組織の分解を防ぐためホルマリン液が入っている。ホルマリンは発がん性があり、触れたり蒸気を吸い込んだりすると健康を害する可能性がある。医師や看護師の安全を考えると無暴露タイプが好ましいが、価格の高さがネックとなり、実際は暴露の恐れがある容器を使うことが多い。富山大付属病院では年4千個使用している。

三晶MECは富山大学術研究部医学系の平林健一教授らのグループと共同開発に着手。同病院の医師や技師、看護師から使いやすい大きさや使用感などのアドバイスを受けて改良を繰り返し、容量10ミリ、25ミリの2タイプを開発した。開発品はキャップ部分にホルマリンが入っており、

ナイロンのフィルムが膜となってポトルに流れ込まない構造。検体をポトルに入れ、キャップを閉めるとポトルに付属するカッターがフィルムを破り、ホルマリンの液体が流れ込む。三晶MECは、自社でポトルとキャップを製造することで

コストを低減し、海外製より安く、国内に流通する一般品と同程度の価格に抑えた。

既に受注を始め、7月から富山大附属病院に納入している。今後は国内外の病

タービン・発電機損傷

志賀原発2号機 能登地震で接触痕

北陸電力は4日、能登半島地震で被災した志賀原発2号機（石川県志賀町、停止中）の低圧タービン2機と発電機に、揺れを原因とした損傷が見つかったと発表した。2024年度上期内に発電機とタービンの確

CO₂由来の繊維

供給網構築

ゴールドウィン、三菱商事など国内外7社は4日、工場の排ガスから取り出した二酸化炭素(CO₂)や水素から合成された「パラキシレン」などを原料としたポリエステル繊維を供給し、製品化するサプライチェーン（供給網）を構築したと発表した。化石資源由来となっている原料をサステナブル（持続可能）なものに転換し、脱炭素につなげる。エネルギー企業や原料・素材製

ゴールドウィンなど7社

造企業も参画する。CO₂由来のパラキシレンのほか、バイオ原料も活用し、ポリエステル繊維を製造。ゴールドウィンの主力ブランド「ザ・ノース・フェイス」のスポーツユニフォームなどに採用し、7月の商品化を予定している。流通量が確保できれば、同社が手がける複数のブランドで使用していく。CO₂由来のパラキシレンの製造は、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の実証事業に採択され、富山大や三菱商事などが共同研究開発を進めている。